



## 4月5日 小里城跡祈願祭



稲津の桜の名所、御殿場跡は桜満開でした。30分ほど山道を登り本丸跡に到着。急な山道でも、子ども達は身軽に登っていました。山頂の東屋から眺める風景は、小里川沿いの桜並木が絵画を観ているようで素敵でした。

山頂の小里城山神社では新しい斎主さんをお迎えし、子どもを含め25名で祈願祭を執り行いました。祝詞が始まると風が止み斎主さんの声が響き渡り、小鳥のさえずりと共に登山者の安全祈願をしました。

## 4月9日 桜満開 寿大学 笑顔満開 やる気いっぱい!

入試も卒業もない大学、稲津寿大学始業式が開催されました。53名の学級生は前年度の振り返り、新年度の学習計画などを確認しました。学習会では市民協働課出前講座「悪質商法にだまされないため」の寸劇を観ました。買い取り業者の強引さに圧倒されましたが、知らない電話には出ない、業者を家に入れない、キッパリと断るなど確認しました。



## 4月12日 屏風山山開き祭



春暉のぬくもりを感じながら歩く屏風山は清々しく、ハイキング感覚で歩かれる方が多くみられました。10時30分頃山頂に到着、凜とした空気の中登山者の安全を願って、35名で屏風山山開き祭を執り行いました。春霞でしょうか、遠くは白くかすみ名古屋のツインタワーや白山を眺めることはできませんでしたが、近くの稲津町や瑞浪市内の町並みはハッキリ見ることができ、初めて登った人は感動していました。

## 使用済小型家電の回収 ご協力ありがとうございます

小型家電(資源)に出せる物が変更になりました

対象となる小型家電 携帯電話・スマートフォン・タブレット端末・パソコン・HDD・デジタルカメラ・デジタルオーディオプレーヤー・電子辞書・ゲーム機等



- ・個人情報などのデータは必ず消去してください
- ・電池、バッテリーは必ず取り外してください
- ・製品の箱は投入しないでください
- ・投入口(18cm×40cm)に入らないものは、不燃物最終処分場へ持ち込んでください



小型家電に出せなくなった物(不燃ごみとして出してください)  
ラジカセ・固定電話機・ヘアーアイロン・ドライヤー等

3

詳細は「家庭ごみの分け方・出し便利帳」「スマホPC版さんあーる」をご確認ください。



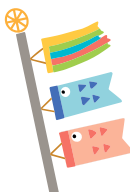
稲津公民館回収箱

## ii-nuts!!ギャラリー

映えスポット  
計画中

## 端午の節句とこどもの日

5月5日が現代のように鯉のぼりや鎧兜を飾って盛大に祝われるようになったのは鎌倉時代からといわれています。また、こどもの日になったのは1948年で「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」の休日と定められています。最後の一文もいいですね。



## 記念すべき「公民館だより」555号

昭和51年5月1日 第1号が発行され、今回令和7年5月号が555号となりました。

第1号は「公民館について」「前年度中の公民館の歩み」「51年度の公民館事業」が紹介されています。

文中では「文化祭と農業祭を兼ね合わせた文化農業祭を11月中に開催することを計画しておりますので次のことがらを参考に、今から創意工夫をこらして、ご出品くださいますよう、今からお願いいたしておきます。」と記されています。文化祭は町民の皆さんに出品出展していただき盛り上がり、49年前も今も同じですね。令和7年度第51回稲津町文化祭は10月25日26日です。

## 5月の稲津さん

ようめいじ  
楊名時太極拳の師範

工藤 慎子さん (上平)

2007年4月から始め、途中休みましたが18年目になります。始めたきっかけは、公民館で太極拳教室を見学させてもらったとき、ゆっくり動く空気感が心地よく感じ、とりこになりました。

太極拳の呼吸法は、自律神経が整いゆったりとした考え方ができるようになります。また、「比べない、競わない」という理念にも共感します。

師範になるためには初伝から始まり6階位があります。初伝に合格した時には、大人になって賞状がもらえたことが純粋に嬉しかったです。型を覚え、意味や考え方などを勉強していくうちに師範に挑戦してみようという気持ちになりました。審査は、先生方の前で実技をしますが、いつものように演技ができたのが良かったと思います。



第1号は公民館ロビーでご覧いただけます。

人口	3月1日現在		4月1日現在		増減
	男	2,029 人	2,018 人	人	
	女	2,027 人	2,026 人	人	
	計	4,056 人	4,044 人	人	
世帯数		1,736 世帯	1,745 世帯	世帯	9

小里	不燃ごみ		ビン・缶・ペットボトル・紙類・古着
	5月14日	5月28日	
	6月18日	6月25日	
	6月17日	6月24日	

祝「第555号」  
稲津公民館では、昭和51年5月に「公民館だより」第1号を発行(平成21年4月から「月刊いなつび」)としてから49年の月日を重ね、本年5月号で第555号を迎えることができました。これを記念して今まで発行された「公民館だより」の記事から二つを紹介しようと思います。  
昭和54年3月2日発行(第9号)に「地名考 稲津」という地名はいつからか」という記事です。  
明治22年小里村・萩原村の両村が合併したが、村名について小里村の住民は小里村と、萩原村の住民は萩原村とせよと主張した。  
この時、「ものしりの古老」が、「昔は、小里村も萩原村も一括して土岐庄あるいは津田庄の一郷として稲口庄津田郷または稲口庄小里郷と呼ばれていた。その古い庄郷名の稲口庄津田郷の頭の「字」ずつとって稲津村としたらどうか」と提案し、双方異論なく一件落着と相成ったものであるという。(一部省略)  
今回、古い記事を読み返して地名のルーツを確認でき、地元愛が増したような気がします。これからも「いなつびより」を充実したものとしてまいりますので、よろしく願っています。

(K)

館長「いなつび」

2